

1 一酪農場における黄色ブドウ球菌性乳房炎対策指導

山城家畜保健衛生所

○石森 裕 渡邊英史

5

10

15

20

25

30

【はじめに】管内の一酪農場（成牛 25 頭規模）において黄色ブドウ球菌（SA）を原因とする乳房炎がまん延、平成 26 年 1 月には乳中平均体細胞数が 100 万/mL を超過。原因究明、拡大防止、体細胞数低減等について農家、NOSAI、家保が協力して対策を実施。【取組の概要】農場内の牛の全頭検査により SA 感染牛を特定し、感染牛の移動と搾乳順の変更並びに治療又は早期淘汰を指導。非感染牛の検査を継続して行い、新たな感染があれば同様の対応を実施。牛床や使用器具等の飼養環境内の検査を行い、SA が検出された部分を消毒。搾乳に立ち会い手技を改善。【結果】平成 26 年 1 月には搾乳牛 24 頭中 15 頭が陽性牛だったが、感染拡大防止対策や治療又は淘汰により平成 27 年 11 月には 21 頭中 1 頭に減少し、乳中平均体細胞数も 10 万/mL 以下に減少。【まとめ】乳中平均体細胞数が 1 年以上にわたり極めて低いレベル（10 万/mL 以下）に維持されており、一連の SA 対策が農場全体の衛生レベルを向上させていると考えられる。しかし新たな SA 陽性牛が散発することから、感染源の究明と発生予防対策に引き続き注力する。